

【1月知事定例記者会見】 1月24日（金）

● 佐賀県立大学（仮称）の学長予定者

佐賀県立大学の学長予定者は、佐賀県立大学（仮称）の専門家チームリーダーでもある、山口和範（かずのり）先生。公立大学の設立時の学長は、設立団体の長が任命するとの法律がある。そのため、今回は私から任命させていただく。

今後は、山口学長予定者と連携を取りながら、ソフト、ハードともに開学に向けた取組を加速させたい。

● 現代につながる国の骨格を創った 江藤新平復権プロジェクト

1月18、19日の大学共通テスト（地理歴史）に、佐野常民が作成した報告書や日本で最初に開業した鉄道問題が出題された。また、歴史総合、日本史探求では、森永製菓に関する設問もあった。

佐賀の題材が試験問題になったのは、明治維新150年からの取組の成果だと喜んでいる。

幕末から明治維新期の佐賀藩は、大砲や蒸気船を建造する科学技術立県。天然痘ワクチンを普及し、医療分野でも貢献した。

この時期の偉人の中でも特に、江藤新平は近代日本の礎を築く大きな役割を果たした。その江藤新平と島義勇らが佐賀戦争で処刑。その2年後に佐賀県が廃止され、7年後に佐賀県が分離独立。宮崎、富山とともに最後に県となった。

薩長土肥の四本柱の一つで、国の礎をつくったにも関わらず、おとりつぶしの憂き目にあった。誇りを取り戻すためにも江藤らの復権に取り組む。

知事就任当初、明治維新150年の企画がなかった。薩長土肥に肥前が入っている理由が知られていないのではないかと。佐賀だからこそやるべきだと「肥前さが幕末維新博覧会」を行った。佐賀県政150年を迎える令和15年には、真の復権が成し遂げられ、志を未来に継承したい。

江藤新平は、大木喬任と共に、江戸を東京に改め新都の進言をした。また、三権分立の設計や国民皆教育の提言、法典の編纂に着手。民間人救済のため、現在の裁判制度の基をつくった近代日本の司法制度の父と呼ばれた人。しかし、ろくな裁判も受けられず処刑。後に罪状は消滅し名誉回復はなされたが、輝かしい功績は打ち消されたままだと言える。

昨年、没後150年を迎え、特別展を実施したところ、全国から多くの江藤ファンが集

まったため、昨年10月からは常設展示にした。

ある教科書に「佐賀戦争」と表記されたのはうれしいニュースだった。

2月1日は、井沢元彦さんらをお招きし、復権イベントを行う。また、江藤新平の功績を広く知ってもらうため、プロモーションムービーを制作中、今春公開予定。竹中直人さんが、江藤新平を熱く語る。江藤新平の「志」を未来へ。

● ノウフクレンケイ拡大中

農福連携とは、担い手不足の農業者と、やりがいのある就労を願う障がいのある方を連携させる取組。働きやすい工夫を凝らし、その作業に向いた方をマッチすれば、お互いに良い関係になれる。

車いすの方が作業しやすい環境、作業の定型化、ルーティン化し、障がいのある方もやり甲斐を感じて楽しめる環境づくりに取り組む。

パクチー農家では、障がいのある皆さんが生きがいをもって作業していた。本間農園では、卵を1個ずつ拭く大切な作業がある。その作業を辛抱強く丁寧にしていた。

コーディネーターの藤戸さんが、障がい者の作業所と農業の現場をマッチング。また、様々な活動も行い、令和3年度はノウフク連携プロジェクト推進チーム会議を設置した。その後、参加事業所数や請負契約数が、大幅にアップし順調に伸びている。

1月には「ノウフク・アワード2024 フレッシュ賞」を受賞。今後、全国への普及を推進したい。コーディネーターの増員、研修を含め農福連携をさらに進め、全県に拡大を目指す。

1月27日～31日は、サガチカでノウフクランチWEEK。サガテレビ駐車場では、マルシェを開催。そよかぜ館やダイレックス日の隈店西側では、通常販売をしている。

農家も障がいのある方もWin-Winな農福連携へ。

● 佐賀から世界へ 海洋プラスチック問題の解決を目指して

令和8年度、世界初のWorld Ocean Plastic Center(仮)が波戸岬にオープン予定。1月30日、31日には、海洋環境国際シンポジウム、みんなの海国際会議 第1回「佐賀の岬から世界の海を取り戻そう」を開催する。世界各国の海洋学者が集まり、世界のプラスチック問題改善の拠点にする取組。

スモールスタートかもしれないが、志は大きい取組。

● ひとりで悩まないで 性暴力救援センターに相談してください

これまで、女性への支援が中心だった。しかし、性暴力被害は性別に関わらず誰にも起こり得る。医療機関の協力もあり、診療科を拡充。男性や男児への医療支援、心理

的支援の体制が整った。被害に遭ったら、ひとりで悩まないで相談を。

- 障がいのあるなしにかかわらず ともにスポーツを楽しもう

全障スポには、多くの方が参加した。障害者スポーツを広げる機運の高まりを感じる。そこで、障がいの有無に関わらず、共に参加、観戦、体験するパラスポーツ大会を開催する。ボッチャやフライングディスクは、一緒に、また対戦もできるスポーツ。

パラスポーツ競技記録会は、全障スポの代表選手選考会も兼ね実施する。全障スポの全国大会出場は、ハードルが高い。団体スポーツのほとんどは、九州から1県しか参加できない。今後も競技を続けてもらうため、様々な仕掛けで盛り上げたい。

- 恒例の文化プログラム開催 さがの文化を堪能してください

第7回伝承芸能祭は、26日に開催。テーマは「継ぎの世代へ」。今回は、全ての団体が初出場で、子どもだけの参加もある。

安芸高田市の芸北神楽はスペシャルバージョン。エールプロジェクトで鹿児島県の枕崎火の神太鼓も出演。鹿児島県の塩田知事も来県予定と聞いている。

第4回名護屋城大茶会では、平山優さん、磯田道史さん、千田嘉博さんのトークショーがある。文化の集結地である名護屋城だからこそ、この3人の共演が実現した。

チケットのとれない講談師、神田伯山さんの独演会もある。

- SAGA DESIGN AWARD 2025 入賞タイトル決定

「SAGA DESIGN AWARD 2025」は“コト”のデザインに注目した賞。応募総数は94件。今日は、入賞タイトル12件を発表。

2月8日の表彰式で、大賞1件と優秀賞5件を発表する。

- 「Timeless SAGA」佐賀県の新しいプロモーション動画

新しいプロモーション動画を発表する。佐賀に新しく誕生したもの、受け継がれてきたものを厳選し、スピード感ある映像で100秒にまとめた。

<動画放映>

100秒にまとめるのが、至難の業だった。いかにつなぎ合わせるかを熟考した。様々なシーンで使用したい。